

授業科目 日常生活活動学

当教員名] 小林量作 小野宏一 外来講師	対象学年	3	対象学科	理学
	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	60

＜一般目標：GIO＞
日常生活活動（ADL）の概念、その範囲、各種の評価方法について知識を整理し、問題点の抽出ができるようになる。問題点に対する目標設定、プログラム立案までできる。基本的なADLの理解した上で、代表的な疾患・障害のADLについて研鑽する。なお、毎回授業の一部を学生が担当し、授業のテーマにそって調査したことを発表する。

目標：SBO＞

1. 概念について理解する。
2. 評価について理解し、各種評価方法の特徴について理解する。
3. 起居動作・移動動作・身の回り動作指導について理解する。
4. 福祉用具についての理解する。
5. 問題点を抽出し、プログラムを立案できる。
6. 各種疾患のADLについて理解する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・担当教員
1～2	概念、範囲、意義	1	小林
3～4	評価	2	小林
5～6	評価	2	小林
7～8	起居動作 (学生発表)	3	小林
9～10	移動動作 (学生発表)	3	小林
11～12	移乗動作 (学生発表)	3	小林
13～14	身の回り動作 (学生発表)	3	小林
15～16	身の回り動作 (学生発表)	3	小林
17～18	福祉用具 (学生発表)	4	小林
19～20	ADLとQOL (学生発表)	1	小林
21～22	ADLプログラムの立案と指導 (学生発表)	5	小林
23～24	片麻痺のADL	6	外来講師
25～26	神経筋疾患とADL	6	外来講師
27～28	慢性関節リウマチとADL	6	小野
29～30	骨関節疾患とADL	6	小野

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	日常生活活動（動作）－評価と訓練の実際－	土田弘吉・他編	医歯薬出版	1992年
参考書	新版姿勢と動作－ADLその基礎から応用－ 日常生活活動（ADL）	斎藤 宏・他編 橋本 隆・他編	メヂカルフレンド社 神陵文庫	2000年 1998年
その他の資料				

評価方法] 出席、レポート、期末試験	【履修上の留意点】 教科書の予習を必ず行うこと。
-----------------------	-----------------------------